

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 寺本 亮洞
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和2(2020)年6月1日月曜日
(毎月1日発行)1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



医療用マスクを滋賀県庁と病院へ寄贈



甲南病院での寄贈の様子

天台宗では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国に緊急事態宣言が発令された直後の4月17日付けで「新型コロナウイルス感染症拡大に関する声明」を杜多道雄宗務総長が発布。その後、医療物資の不足が深刻化している滋賀県の呼びかけに対し、比叡山宗教サミット「世界平和祈りの集い」の雨天時対応に備蓄していたレインコート300着を提供した。

マスクは、長年にわたり交流を深めてきた中国佛教協会から寄贈されたもので、5月12日に宗務庁に到着した。取り扱いについてすぐさま協議され、滋賀県庁と一隅を照らす運動団体会員の医療法人社団仁生会甲南病院(甲賀市)、一隅を照らす運動総本部が発行する機関紙『きらめき』の取材を通じて交誼のある草津総合病院(草津市)に寄贈することを決めた。

天台宗と一隅を照らす運動総本部は、中国佛教協会から寄贈されたマスク1万枚を滋賀県庁に6千枚送り、県内の甲南病院と草津総合病院に2千枚ずつ持参した。また宗務庁では医療現場で不足する防護服作りを職員で進めるなど、「忘己利他」の精神で、一日も早い終息を願う活動を続けている。(3面に関連記事)

中国からの善意を届ける



草津総合病院からは感謝状が

マスク不足解消に一役

一隅を照らす運動総本部の森定慈仁総本部長が5月18日、甲南病院と草津総合病院を訪問し、マスク各2千枚を届けた。(写真)

甲南病院では、古倉みのり理事長と山本寛院長に面会。2月以降マスク不足が深刻で、現在も2日に一度、洗浄しながら使用しているという。院内感染を防ぐためにも「気を緩めることが出来ない状況」(古倉理事長)が続く。山本院長は「大切に使用せ

ていただきたい」と話した。また草津総合病院では、平野正満慢性期病院開設準備室長に手渡した。同病院では5月13日からPCR検査を行う「地域外来・検査センター」が開設されたばかり。平野室長からは感謝状が送られた。なお滋賀県庁には5月15日に郵送で寄託した。

滋賀県を含めた39県の緊急事態宣言が14日に解除されたが、天台宗では引き続き医療機関への支援等を継続する。

謹告

新型コロナウイルス感染症予防に伴う取材自粛のため、本号は紙面を4ページとしております。

毎年6月と11月に発刊しております『ともしび』につきまして、本年も6月の発刊を目指しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い取材を自粛せざるを得なくなりました。従いまして、本年は11月号の発刊1回とさせていただきます。発刊直前の案内となりご迷惑おかけいたしますことお詫び申し上げます。

極微

自分とは関わりのないところで非日常的なことが起きたら、不安を感じつつも、悲しいかな、当事者からは程遠い意識しか持てないことがある。いわゆる「対岸の火事」だ。「まさか、ここまで火事が及ぶことはないだろう」と思うのだ。新型コロナウイルスの感染問題もそうであった。イタリアなどはまさに対岸の火事の「ことく、さほど中国での感染拡大を重要視していなかったのが、その後は目も当てられない状況に至った。スペインやアメリカも同様だった。これほどスピードの速い感染力とは思っても寄らない疾病だけに、世界中が混乱した。付随しているような問題が生じた。感染者と非感染者の間も意識の乖離が始まる。疑惑と差別感が渦巻いて、相互の不信感も高まる。これは個人だけでなく、国家単位にも波及する。世界的な影響を持つこうした感染症の拡大を防ぐには、国を超えた防疫のための協力体制が絶対に必要だろう。だが残念ながら現代の「自国ファースト」体制が覆う世界の状況では、悲観的にならざるを得ない。この疾病自体よく分かっているのに、自らを守るということが最優先となり、他はかまっていられない事態に陥っているからだろう。もう猶予はない。なんとか、世界の国々が一致団結して、この疾病の終息にたどり着かねば、この世界の終わりが現実的になってくるのだ。